

ワークショップ8 地域に丸投げ? どがんしようか〜、研修医の在宅医療教育。

7月31日(土) 11:10~12:10 3チャンネル

WS-08(要旨) 地域に丸投げ? どがんしようか〜、研修医の在宅医療教育。

What do you do for the resident program with home care.

司会: 松島 加代子 (長崎大学病院)

【はじめに】

在宅医療は、国が推し進めている重要な事業です。厚労省によるプログラム改訂により、2020年度より研修医教育において研修すべき必須項目となりました。コロナ禍で注目されませんが、2020年は、「在宅医療教育元年」と言ってもいいのかもしれませんが。しかし、本学会員が勤務する研修病院の多くが、大病院であり、在宅医療をやっている施設は少ないために、地域研修先の病院へ丸投げ状態になりがちです。これでいいのでしょうか？

私たちにできることは何でしょうか？

このワークショップでは、医学教育学会員として、どのように在宅医療教育に関わるべきかについて議論をします。さらに、在宅医療教育を10年以上自ら行っている企画者らの体験を参考に、効率的かつ実践的な在宅医療教育について情報交換をします。

【ワークショップ進行予定表(あくまで予定であり、変更もあります)】

- (1) はじめに(企画者よりワークショップの目的や進行方法について 5分)
- (2) 在宅医療教育における問題点と自病院の事例(グループワーク 15分)
- 教育目標の問題(何をどう教えるべきか)
- 教育方法の問題(指導医の指導法、在宅医療教育のシステム)
- 教育評価の問題(財源、研修医の評価、指導医の評価)
- (3) グループからの発表またはワールドカフェ(15分)
- (4) 全体ディスカッション及び企画者からの情報提供(20分)
- (5) テイクホームメッセージ(5分)

【参加者に関して】

どなたでも参加可能です。事前の準備は不要です。主に卒後教育(研修医教育)担当者(医師、事務担当)向けですが、企画者は卒前教育も担当経験があり、卒前教育に関しても参考になると思われます。また、長崎の僻地地域での在宅医療教育と市街地での在宅医療教育の経験がありますので、都市部の会員の皆様にも参考になると思われます。

【ワークショップで得られる情報等】

- (1) 地域医療における在宅医療教育の実施方法
- (2) 基幹型病院が独自で行う在宅医療教育の実施方法
- (3) 在宅医療教育における効果的な教え方
- (4) その他、在宅医療教育における情報

医学教育学会では、これまで取り扱わなかったテーマと思われる。奮ってご参加ください！

ファシリテーター: 浜田 久之 (長崎大学病院)

Hisayuki Hamada (Nagasaki University Hospital)

中桶 了太 (国民健康保険 平戸市民病院)

Ryota Nakaoke (National Health Insurance Hirado Municipal Hospital)

谷川 健 (谷川放射線科胃腸科医院)

Ken Tanigawa (Tanigawa Clinic)